

観光社会資本の事例

テーマ	紅葉映える豊平峡
【施設の状況写真】	
	
<p>豊平峡ダムは人口180万の札幌市近郊にありながら、支笏洞爺国立公園内に位置し、豊かな森林と湖に触れあえる北海道の観光名勝の1つとなっている。</p>	<p>渓谷の中にそびえ立つアーチ式コンクリートダムは、美しい景観を形成し、四季折々の風景を楽しませてくれる。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>美しい紅葉が人気を呼び、年間10万人の観光客が訪れている。</p>	<p>ダムの堤頂天端を散策しながら美しい渓谷と紅葉を眺望する観光客。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>豊平峡ダムの建設により、豊かな森林に囲まれたダム及びダム湖からなる新たな景勝スポットが誕生しました。当ダムの位置する豊平峡は特に美しい紅葉が有名で、北海道内有数の規模である定山溪温泉より7km、札幌市中心部より30kmと近郊にあり年間10万人の観光客が訪れています。また、札幌市や(社)定山溪観光協会とも連携しダムへのアクセスは自然環境に配慮して徒歩、または電気バスによる運行を行うなど、訪れる人に将来にわたって「美しい景観」を見ただけできるよう観光資源の保全利用を進めています。</p>	

テーマ	紅葉映える豊平峡
【社会資本の基礎データ】 ○名称 豊平峡ダム ○所在地 北海道札幌市南区定山溪7区 ○事業名 豊平峡ダム建設事業 ○事業主体 北海道開発局 ○事業期間 昭和42年～昭和47年	
【社会資本の役割・効果】 ○治水効果 石狩川の支川である豊平川は、明治時代から幾度となく起こる洪水被害に人々は苦しみ、その中で河道改修が行われてきました。昭和36年、37年には大洪水に見まわれ、これを契機に抜本的な治水対策として、昭和47年に豊平峡ダムを建設しました。その後、昭和50年洪水や観測史上最大となる昭和56年の大洪水に見まわれたことから、平成元年に支川小樽内川に定山溪ダムを建設しました。現在、二つのダムや河道改修等の治水対策により、流域に住む人々の生命、財産を洪水被害から守っています。 ○利水効果 北海道最大の都市として発展を続ける札幌市。その水道水源の98%を豊平川がまかかっています。上流にある豊平峡ダムは、定山溪ダムとともに1年を通して、水道用水を安定供給するとともに、水力発電により人々の潤いのある暮らしを支えています。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 定山溪観光協会 http://www.jyozankei.com/ 豊平川ダム統合管理所 http://www.is.hkd.mlit.go.jp/08isiken/02genba/26damtokan/index.html	

